

社会福祉法人 三徳会

平成26年度事業報告書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

(2014.4.1～2015.3.31)

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（成幸、戸越台、荏原）
通所介護事業所（デイサービス）（成幸、戸越台、荏原、小山）
短期入所生活介護事業所（ショートステイ）（成幸、戸越台、荏原）
居宅支援事業所（在宅介護支援センター）（成幸、戸越台、杜松、荏原、小山、小山台）

目 次

	(頁)
1 概 要	1
2 役員会	2
3 施設整備の主なもの	5
4 利用者の全般状況	7
1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（成幸・戸越台・荏原）	7
1) 生活全般の支援サービス	8
2) その他のサービス	10
3) 相談・情報提供	10
4) その他	11
2. 通所介護事業（デイサービス）（成幸・戸越台・荏原・小山）	15
1) 基本デイサービス（予防給付・介護給付）	15
2) 地域密着型認知症対応型デイサービス	16
3) 介護予防事業（身近でトレーニング）	16
4) 品川区特別給付事業（身近でリハビリ）	17
5) その他	17
3. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	23
4. 在宅介護支援センター（居宅介護支援事業、老人介護支援センター、地域包括支援センター）（成幸・戸越台・杜松・荏原・小山・小山台）	26
5 クラブ活動	33
6 研修報告	34
1) 国内外研修	34
2) 施設外研修	34
3) 施設内研修	34
7 地域活動	35
1) 生と死を見つめる懇談会	35
2) 広報紙「三徳だより」の発行	35
3) ホームページの活用	35
4) 地域交流会	35
5) 高齢者と介護者のための料理教室	35
6) 車いす点検	36
7) ボランティア懇談会	36
8) 地域行事への参加	36
8 その他	37
1) 実習生・研修生	37
2) 防災対策	37

3) 感染症対策	37
9 業績	38

資料編

1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	39
1) 平成26年度の利用者動向	39
2) 利用者の入退園状況	42
3) 利用者の日常生活能力（ADL）	49
4) 家族などの訪問者数・外泊状況	64
5) 三徳懇談会	65
6) セルフチェックシート（自己評価表）	67
栄養・調理	
7) 個別の栄養状態に着目した栄養ケアマネジメントに基づいた特別な対応	83
8) 残菜・嗜好調査	85
9) お楽しみ食、選択食、団らん食、その他	86
10) ホーム喫茶	96
11) 栄養出納表（年間平均）	97
健康管理	
12) 受診状況	99
13) 利用者の診断病名	101
14) 入院・退園状況	104
15) 入院者病名および件数	108
16) その他	111
17) ホーム内処置件数	112
18) 機能訓練	115
2. 在宅サービス	116
1) 年間利用者状況	116
①通所介護施設（デイサービス）	116
②短期入所生活介護施設	130
2) 機能訓練	133
3) 食事サービス（デイ・配食）	134
4) 健康管理	135
5) 栄養調理	141
3. 在宅介護支援センター（居宅介護支援事業）	142
1) 年間利用者状況	142
2) 介護保険利用者状況	154
3) 認知症サポーター養成事業・出前講座および二次予防事業対象者把握事業	166
4. 防災	167

1) 防災委員会の開催	167
2) 防災訓練の実施	169
5. 委員会活動	172
6. その他	180
1) 研修報告	180
2) 実習生受入れ	190
3) 見学	191
4) 近隣との交流	193
5) ボランティア事業報告	195
6) 平成26年度行事表	201
7. 事例報告および研修報告	205
1) 事例報告	205
2) 研修報告	217

1 概 要

平成26年度は消費税8%の引き上げに伴う介護報酬の変動、平成27年4月の介護報酬減額改定2.27%への影響についても対策が必要な年であった。

厳しい経営環境において適正な収支バランスを図ることを課題として、平成25年10月から「稼働率向上検討会」を設置し、稼働率向上への取り組みを行っている。今年度、入所待機者に特養への理解を深めてもらい効率的な入所を進めるため、「特養ホーム説明会・見学会」を4回開催した。また関係機関との情報共有を図り、特養の空床ベッド利用による一時入所を積極的に受け入れるなど安定した稼働率へと取り組んだ。

その結果、前半は高稼働率で推移し、年明けから入院や退所が続き稼働率は低下したものの全体では96%を上回り、収入の向上につながった。

施設では年々利用者の重度化や高齢化が進み、看取り介護は増加している。穏やかな最期を迎えることができるように利用者、家族の意向を尊重して、各専門職がチームケアで取り組み、法人全体で入所者の約2割の看取り介護を行った。

また、食事の摂取機能に著しい低下が見られる利用者が増えるなかで、食べやすい、安全な介護食の充実に力を入れた。経鼻栄養から経口摂取に移行し、口から食事をするという自然な営みを最期まで続けることができた実践は、品川福祉保健従事者実践・研究発表会で最優秀賞を受賞した。

地域の単身世帯の増加や家族介護力の低下する状況のなか、在宅の高齢者の緊急入院や受診への付き添い、またショートステイやデイサービス利用中の急変時の救急対応など、医療機関や行政機関との連携を図りながら地域の多様化するニーズに対応した。

中長期的な取り組みである人材育成は、職員との目標面接により課題を明確にし、研修計画の策定により職員一人ひとりのキャリアアップを図り、組織力の向上につなげた。

入職後1年以内に離職する職員が少なくないという課題についても、新人研修に新たに技術研修を取り入れ習熟度を評価した。仕事への意義ややりがいを感じるように、また気軽に相談できる体制など新人職員の定着に努めた。

平成28年5月に開設する品川区から受託した品川区立平塚橋特別養護老人ホーム(仮称)の準備を進め、開設準備室の設置、社会問題となっている介護人材不足に対応するため、積極的に学校訪問を行いより良い人材確保に努めた。またホームページを刷新して採用情報や施設内容を充実させ、就職説明会や採用選考面接を十数回実施した。

2 役員会

1) 平成26年度理事会の開催状況および審議の概要は、次の通りである。

開催日時	審議事項
第169回理事会 平成26年5月17日(土) 荏原ホーム 2階多目的室	1. 平成25年度事業報告(案)について 2. 平成25年度各会計決算(案)および監事監査報告について
第170回理事会 平成26年7月19日(土) 戸越台ホーム 10階会議室	※報告事項 平成26年5月収支状況報告他
第171回理事会 平成26年10月4日(土) 成幸ホーム 1階会議室	1. 社会福祉法人三徳会品川区戸越台第二在宅介護支援センター運営管理規程の一部改正について 2. 社会福祉法人三徳会ホームページ管理運営規程(案)の制定について
第172回理事会 平成26年12月13日(土) スクエア荏原 3階大会議室	1. 社会福祉法人三徳会経理規程の一部改正(案)について 2. 社会福祉法人三徳会 利用者負担金等債権の放棄について 3. 平成26年度 第1次補正予算(案)について 4. 社会福祉法人三徳会ホームページ管理運営規程(案)の制定について 5. 社会福祉法人三徳会組織管理規程の一部改正(案)について
第173回理事会 平成27年3月14日(土) スクエア荏原 3階中会議室	1. 平成26年度第2次補正予算(案)について 2. 平成27年度事業計画(案)について 3. 社会福祉法人三徳会組織管理規程の一部改正(案)について 4. 社会福祉法人三徳会経理規程一部改正(案)について 5. 平成27年各会計予算(案)について

2) 平成26年度評議員会の開催状況および審議の概要は、次の通りである。

開催日時	審議事項
第44回評議員会 平成26年5月17日(土) 荏原ホーム 2階多目的室	1. 平成25年度事業報告(案)について 2. 平成25年度各会計決算(案)および監事監査報告について
第45回評議員会 平成26年12月13日(土) スクエア荏原 3階大会議室	1. 社会福祉法人三徳会経理規程の一部改正(案)について 2. 社会福祉法人三徳会 利用者負担金等債権の放棄について 3. 平成26年度 第1次補正予算(案)について 4. 社会福祉法人三徳会ホームページ管理運営規程(案)の制定について 5. 社会福祉法人三徳会組織管理規程の一部改正(案)について
第46回評議員会 平成27年3月14日(土) スクエア荏原 3階中会議室	1. 平成26年度第2次補正予算(案)について 2. 平成27年度事業計画(案)について 3. 社会福祉法人三徳会組織管理規程の一部改正(案)について 4. 社会福祉法人三徳会経理規程一部改正(案)について 5. 平成27年各会計予算(案)について

3) 役員名簿

理事長	内野滋雄	医療福祉関係者
理事	内野京子	施設長代表
〃	林茂一郎	医療福祉関係者
〃	中嶋理	学識経験者
〃	鈴木恂子	医療福祉関係者
〃	岡田清	医療福祉関係者
〃	市原勝祐	医療福祉関係者
〃	井上幸彦	学識経験者
〃	内野正隆	医療福祉関係者
〃	武内勉	施設代表
評議員	村和男	学識経験者
〃	田端光美	学識経験者
〃	酒井隆	医療福祉関係者
〃	阿世知堯	地域の代表者
〃	武藤健一	医療福祉関係者
〃	宮下朗	学識経験者
〃	三瓶恭生	地域の代表者
〃	國分幹郎	地域の代表者
〃	山海晴道	家族代表
〃	宮坂衛	家族代表
〃	高橋初美	家族代表
監事	海老江成治	元行政職員
〃	銅谷勝子	医療福祉関係者

任 期 平成26年3月20日から平成28年3月19日

※理事は評議員を兼ねる

3 施設整備の主なもの

1) 成 幸

【工 事】	(単位：千円)
1 通路ブロック塀改修	1, 7 2 8
2 誘導灯交換5台	4 9 7
3 汚水排水ポンプ取替	4 9 7
4 ブラストチラー修理	3 6 2
5 汚水ポンプ交換	3 0 2
計	<u>3, 3 8 6</u>

【備品購入】	(単位：千円)
1 栄養給食管理システムソフト	7 9 6
2 栄養給食管理用サーバー	5 7 3
3 栄養給食管理用クライアント	3 7 4
4 電動ベッド	1 8 8
5 チルト式車椅子	1 1 5
計	<u>2, 0 4 6</u>

2) 戸越台

【工 事】	(単位：千円)
1 ファンコイルユニット更新工事	1 8, 9 0 0
2 電気錠修理	3 5 0
3 配膳車膨張弁交換 3台	3 2 6
4 防火ドア交換	1 6 6
5 空調機ドレン配管工事	1 1 9
計	<u>1 9, 8 6 1</u>

【備品購入】	(単位：千円)
1 配膳車 2台	6, 4 2 6
2 機械浴槽	4, 2 0 1
3 栄養・給食管理システム	8 0 2
4 ノートパソコン 4台	4 5 3
5 清拭車	1 8 0
計	<u>1 2, 0 6 2</u>

3) 荏原

【工事】

(単位：千円)

1 中央監視装置改修工事法人負担分	22,045
2 トイレ・食堂洗面台改修工事法人負担分	2,130
3 消防設備改修工事他法人負担分	1,599
計	<u>25,774</u>

【備品購入】

(単位：千円)

1 厨房作業台	781
2 介助リフト	480
3 栄養PCシステム+ソフト	802
4 エアコン設置 (小山在宅介護支援センター)	149
計	<u>2,212</u>

4 利用者の全般状況

1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

（成幸・戸越台・荏原）

平成26年度は、利用者サービスの質の向上と稼働率の安定を念頭において、円滑な入所調整と専門性のある質の高い介護サービスを遂行するように取り組んだ。

昨今の稼働率低迷は、新入所者の高齢、重度化により入所間もなく医療機関へ入院するなど、利用期間が短く退所者数が多いことが要因となっていた。これに対応すべく、速やかな入所調整ができるように、隔月で「稼働率向上検討会」を開催、ケアマネジャーとの連携や情報共有を図った。さらに、入所検討または入所の待機をしている家族に向けて「施設見学・説明会」を4回実施、祝日の開催も行うなど広く参加ができるようにした。

安定した稼働は利用者の身体の変化に速やかに対応することや、ケアの質によることも大きい。介護と看護、栄養の連携により利用者の身体的変化を見逃さず、食事や水分の摂取などに日頃からきめ細やかで、かつ丁寧な介護の実践が不可欠である。平成26年度は入退院や退所人数が少なかった施設もあり、結果として3施設平均稼働率は昨年比2%増の96.8%となった。

今年度も質の高いサービスの提供をめざし、サービスマナーの研修を始め、認知症対応、感染症、職員のストレスマネジメントなどの勉強会を開催。他の研修では「医療的ケア（喀痰吸引等）研修」（品川介護専門学校）に各施設の介護職員が参加し、技術の習得、スキルアップを図った。実地研修は施設の指導看護師により行われ、現場に則した実践的な研修となった。ターミナルケアは、利用者の最終章に寄り添う介護職の使命として、利用者の尊厳を第一に考え、医療職を始め多職種で連携を取りながら、身体的、精神的そして、環境的な側面からも充実を図ることができた。

今後も平成28年度5月の平塚橋特別養護老人ホーム（仮称）の開設を見据え、サービスの質の向上を目指し、階層別研修の充実と人材の育成を推進していく。

（1）サービスの向上と稼働率の安定

各機関の連携や「稼働率向上検討会」の定期開催により、3施設平均で昨年比2%増の稼働率の改善となった。区内特養入所希望者や待機者、区からの要請による一時入所の受け入れなど利用者のニーズに応えることができた。

特養見学説明会では、相談コーナーを設け個々の状況に応じた相談や説明ができるように、ケアマネジャーや特養相談員が対応した。また、最近では入所申し込み前に施設見学する家族も増え、特養を理解した上で申し込んでもらうことで、速やかな入所調整が可能となりつつある。

（2）職員の資質向上と人材育成

キャリアに応じた役割や能力を念頭に、求められる人材育成のために、各種勉強会や研修を行った。専門的な知識や能力の向上を図り医療的ケア（喀痰吸引）研修は各

施設から複数名参加し、重度化に対応できるよう技術の習得をした。平成28年5月に開設する新施設はユニット型の特養であり、ユニットリーダーの研修が必須となる。開設準備の段階で中・長期を見据えた研修計画を立てた。

(3) コンピューターソフトによる業務の効率化

現在使用しているケース記録ソフトにより、各セクションの情報共有や連携が早く、確実に出来るようになった。タブレットを駆使して、現場で入力も簡易にできるようになり業務の効率化につながった。今後は施設間で使用しているシステムやソフトの統一や、請求業務で効率化が期待できるソフトの運用など、事務と連携をとり進めていく。

(4) 人材の確保

品川区から受託した品川区立平塚橋特別養護老人ホーム開設(仮称)を平成28年5月に控え、福祉人材確保に計画的に取り組み、一定数の介護職員を採用することができた。今後も質の高い介護サービスの提供のために、適切な人材の確保に取り組んでいく。

表① 利用者状況(平成26年3月31日)

区分	性別	定員(人)	最高年齢(歳)	平均年齢(歳)	平均要介護度	年度内総入所者(人)	平均稼働率(%)
成幸	男性	15	92	88.7	3.47	9(3)	97.9
	女性	65	107	89.7	3.75	30(21)	
	計	80	—	89.2	3.61	39(24)	
戸越台	男性	14	96	85.8	3.86	18(10)	96.7
	女性	58	100	91.1	3.69	42(19)	
	計	72	—	90.0	3.74	60(29)	
荏原	男性	16	96	87.9	3.35	14(10)	96.2
	女性	104	104	91.3	3.87	57(28)	
	計	120	—	90.9	3.81	71(38)	

※()内の数字は実入所者数。一時利用含む

1) 生活全般の支援サービス

(1) 食事

美味しく、楽しく、安全な食事を提供することに努めるとともに、超高齢者の増大と重度化に伴い、栄養ケアマネジメントによる個別栄養管理を食事サービスに即時反映させることを目指した。利用者個々の摂食機能に合わせた食事形態を考え、介護食(5種)やハーフ食、看取り対応食などを実施してきた。また、食事の個別サービスにとどまらず個々の身体リズムに合わせた食事時間の調整(遅食メニュー

の設定)を衛生面や職員配置の面を考慮しながら行い、さらに個々の身体機能に合わせた自助食器や介助食器の使用など多職種の協力助言を得て個別サービスの拡大を試みている。特定給食施設(集団給食)の中で個別サービスの拡大はむずかしい課題であるが画一化したサービスで良い部分と個別サービスでなければいけない部分を見極め、必要な人に必要なサービスがしっかり届くような栄養・給食管理システムを用い低栄養予防に努めた。また、介護予防に着目し、楽しくおやつなどを作りながら残存機能の維持に努めている。

(2) 入浴

利用者の身体状態に合わせた入浴方法でサービスを提供するとともに、菖蒲湯、ゆず湯などの行事湯の他、定期的に香り湯を提供し精神的にもリフレッシュしていただけるように工夫を凝らした。

(3) 介護サービス

①排泄介助

個別の排泄パターンを把握するとともに、オムツの種類も形態、サイズ、吸収力、肌触りなど利用者一人ひとりの身体状態や排泄間隔に適するもので対応した。

②整容

月に2回の割合で業者により、本人のヘアスタイルなどの要望を伺って理美容サービスを行った。また、爪切りや耳垢清掃、髭剃りなども定期的に行った。

(4) 健康管理

加齢により嚥下機能が低下して、誤嚥性肺炎や経管栄養者が増加する傾向にある。また、医療行為を必要とする処置件数も増加傾向にあり、褥瘡などの皮膚疾患に対する処置件数も多くなっている。ノロウイルスやインフルエンザウイルスなどの感染症対策には、感染症対策委員会を設置して感染症予防対策も積極的に取り組んだ。また、増加がみられる認知症高齢者には、月2回認知症相談を行っている。

※詳細は、99～114頁を参照

表② 認知症相談

区 分	H26年度	H25年度	H24年度
成 幸	77人	100人	127人
戸越台	76人	42人	50人
荏 原	93人	119人	55人

(5) 機能訓練

身体機能の維持や日常生活の安定など、利用者の生活に重点を置いた機能訓練を

実施した。個人の抱える課題を明らかにし、起居動作の改善や生活意欲の向上、福祉用具活用による介護の軽減など、他職種連携による生活リハビリを目指して取り組んだ。また、嚥下機能の維持改善を図るための嚥下体操や屋外活動としての「青空リハビリ」を実施した。

(6) レクリエーション

単調になりがちな日常生活に潤いを与え、季節感を感じていただき、生活の質の向上を目的にしたさまざまなレクリエーションを実施した。

日常生活のわずかな時間を利用したフロア、グループ毎のレクリエーションから、デイルームを利用して行うものまでさまざまなものを実施した。

①行事

- ・季節の行事：花見、七夕、納涼祭、月見、クリスマス会、餅つき、節分など
- ・地域の行事：区民まつり、町会祭礼など

※詳細は、193～197頁を参照

②ボランティアによるイベント

- ・近隣の小中学生、実習生などによるイベントの開催
- ・個人・団体のボランティアによるイベントの開催

③フロアレク活動

本人の体調を踏まえた上で活動に参加していただき、日常生活に潤いを与え、気分転換を図れるように実施した。

④外出

気分転換と季節を肌で感じていただくことを目的として、外出援助に取り組み、近隣の公園や商店街へ買い物に出かける機会を設けた。

2) その他のサービス

(1) 三徳懇談会

利用者への情報提供と意見交換や要望などを聞き、サービスの向上につなげられるように毎月行った。

表③

区 分	参加延べ人数
成 幸	179人
戸 越 台	207人
荏 原	244人

(2) クラブ活動への参加

希望されるクラブに年間を通して参加していただき、単調になりがちな日常生活に潤いや活気のある生活を過ごしていただけるように努めた。

3) 相談・情報提供

(1) 相談サービス

①家族懇談会

家族への施設サービスの内容説明、介護保険制度の情報提供、意見交換や情報交換などの場として開催した。

表④

区 分	実施月日	参加家族
成 幸	9月27日	29家族
	3月28日	31家族
戸 越 台	7月13日	32家族
	1月18日	37家族
荏 原	9月27日	44家族
	3月7日	40家族

②苦情相談窓口

苦情対応窓口や意見箱に寄せられた意見や提案などは迅速に対処して、定期的で開催される第三者委員会に報告した。また、年間の苦情・意見の内容は広報紙に掲載して公開した。

(2) 生活だより

利用者の施設における生活状況を家族に伝えるものとして、各施設で広報紙を発行した。

4) その他

(1) セルフチェックシート（自己評価）

サービス向上の仕組みとして、品川区施設サービス向上研究会で開発したセルフチェックシートを用いて、施設サービスの評価を行った。評価結果をもとに改善すべき課題を明確化して計画的に改善を進めた。

(2) 介護サービス情報公表制度

基準に従った介護サービスを提供していることを、インターネットなどで一般に公開した。

(3) 各施設の取り組み

成幸ホーム

①丁寧な介護を心掛け実践した

平成26年度は勤務するフロアのチーム分けを変更した。大きな変更点は、3階担当と4階担当と分けていたものを一つのチームとした点である。リーダーにおいては、3階4階の合同リーダーとして2名配置とした。初めは、把握する利用者の情報が増えたため、職員が混乱する場面も見られたが、リーダー間の強い連携意識に倣うかのように、チームの職員も各々が積極的に利用者の情報収集に努め、専門性の高い個別的なケアを行うことができるようになった。2階はショートステイ（16床）併設であり、利用者情報の日々の変化に、遅れずに対応していく大切さを各職員が実感しながら業務に就いていた。利用者にとっては「自分の介助方法を知ってもらえている」という安心感につながっていたと見えた。結果として、全体的に体調を崩す方も少なく、安定した稼働率を維持できたことにつながったと解釈できる。

②安心できる環境作り

26年度品川区福祉カレッジ施設ケア研修参加者も取り組んだ「人と人との交流」については、個々の性格や好みなどを親身に考えながら援助した。認知症のあるなしにかかわらず、新しい関係が築かれ、他者を気遣う様子や自分の身なりを気遣うなど、利用者の自発的な行動が見られるようになった。また、帰宅願望の強い方には、心情理解に努め、チームワークで対応した結果、「ここにいってもいいの」と利用者自身が居心地の良い場所と感じてもらえるまでに至った。看取り介護においては、慣れ親しんだ職員および環境で過ごしたいという、本人および家族の意向を汲んで、なるべく自室で過ごす方向で対応した。家族も慣れた職員が対応していることに安心されている様子が見られ、コミュニケーションも良好であった。

③サービスマナー委員会（※）の継続

委員が中心となり、「あなたを大切に思う」援助について、日々の業務で忘れないために行動指針を考え、月間目標を作成した。毎朝礼で全職員が声に出して読み合わせを行い、ケアワーカー室に掲示した。委員会の取組みと共に、各職員のサービスマナーに対する意識も継続している。（※「高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修（主催：東社協）」参加者を中心に委員会を25年度に発足した委員会）

④事故予防と感染症対応

1月にインフルエンザ発症による感染対応をとった。1フロアのみでの発生に止めることができたことは、感染症に対する知識を日頃から習得していたことと、対応中の緊張感がチーム内で保たれていたためと評価できる。発症予防に

今後も努めていきたい。また、リスクマネジメントについても、継続して予防意識を高める行動をとった。誤薬事故予防のために、毎朝、全職員で服薬に関する注意点を声に出して読み上げた。移乗介助については、積極的にリフト等の介護機器の使用や職員2名体制での方法をとることが、基本的な考え方となり実践することができた。嚥下機能の低下に伴い、食事介助に時間がかかる方が増えたが、「ゆっくり、無理せず、丁寧に」をチームの合言葉にして安全に介助にあたった。結果として、安全対策についての意識が向上し、元気に安心して過ごしてほしいという思いを利用者に伝えることができたと見える。

戸越台ホーム

①介護技術の向上

平成24年度から介護職員の技術向上のために勉強会を継続して行っている。今年度は拘縮予防に続き、軽介助によるADLの維持、廃用・誤用・過用症候群を意識した介護技術をリーダー中心に身につけることができた。平成27年度はこの技術を現場職員が習得できるようにしていきたい。

②介護機器の活用

介護機器（移乗用具）としてリフトやスライドシートの他に、スライドボードも定着することができた。利用者にとって負担のない移乗介助、介護職員の腰痛予防にもなっている。

③リスクマネジメント

2月でようやく身体拘束ゼロを達成することができた。これからも利用者の安全に配慮しながら、また、利用者の尊厳を守るために、できるだけセンサー類などを必要最低限まで減らすことができるように努力していきたい。

④感染症

3月にインフルエンザが発生したが、即座に感染予防対策委員会を開催して対応したことにより、拡大を防止することができた。これからも感染症が流行する時期だけではなく、日頃から対処できるように取り組んでいく。

⑤地域交流

戸越銀座まつり、ぼんぼん廻り、戸越八幡こども相撲など、地域の行事にはできるだけ利用者と出向き、職員数に限りがあるので家族にも協力をいただいている。これにより、戸越八幡神社にスロープをつけていただくことができた。これからも外出支援を続けることで町の方々に利用者を知っていただき、障害や認知症の人が町にいたることが自然であるように、地域づくりに努めていく。

⑥経口栄養摂取への取り組み

退院されて経管栄養で再入所した利用者、各専門職がチームケアで経口摂取の移行へと取り組んだ結果、ゼリー食の経口摂取ができるようになり、おやつや食事の摂取やホーム喫茶への参加など生活の中の楽しみを取り戻すことができた。家族の思いに寄り添い、口から食事をするという自然な営みを最後まで続ける

ことができた実践を、品川福祉保健従事者実践・研究発表会で発表し、最優秀賞を受賞した。

荏原ホーム

- ①昨年度に引き続き「プラス1のケア」を掲げ、職員が自らの職務に当たる姿勢を見直した。あいさつ、言葉遣い、礼儀、立ち振る舞いといった基本姿勢をしっかり行うことで、利用者の整容、事故予防といった基本的な介護サービスを見直す機会を設けた。
- ②行事委員会の設定と定期的な開催
荏原まつり、作品展などの施設全体で取り組んでいる行事については、全セクションが協力して開催するように行事委員会を定期的に開催している。地域の方々にも楽しんでいただける内容をそれぞれのセクションが提案し、セクション間の協力体制の強化と開かれた施設としての発信を行った。
- ③ミニ勉強会の実施・他セクション交流
昨年度から引き続き生活サービス室内のサービス向上を図るために直接介護をテーマとした短時間の勉強会を数回実施した。内容によっては他セクションからの協力を仰ぎ、必要な知識や技術の習得に努めた。
- ④防災対策の強化
利用者個々の心身の状況に適した避難介助法を実践する一環として、個別避難計画書（災害時ケアプラン）の内容説明を家族懇談会にて実施した。災害直後から数か月間にわたっての介護計画について記載していることを説明し、参加した利用者家族から同意を得た。今回参加されなかった家族については、郵送等で内容確認をしてもらった。より安心して荏原ホームでの生活を送ってもらえるように取り組んで行く。
- ⑤暮らしの情報シートの活用
入所時には“暮らしの情報シート”を家族へ説明した上で渡し、入所後に開くまでのサービスのヒントとなるような情報を記入してもらっている。これを用いることにより会話のテーマやアクティビティの提供の際にも様々なアイデアに結び付けることができている。
- ⑥アクティビティの定着化
レクリエーション用の道具をさらに充実させたことにより、午後の余暇時間のバリエーションが増えるとともに職員が積極的にレクリエーション実施するようになった。内容も同時に多数の利用者が参加できる歌や塗り絵、計算のようによいだけ個々のニーズに合わせられるよう工夫している。
- ⑦介護機器の活用
腰痛予防と業務負担軽減のためにリフトやスライドボードといった移乗に関する機器を積極的に導入を図った。例えば畳部屋等の床にて臥床されている方を床から移乗介助できるアーチ型リフトをデモ実施した。これは畳部屋等の床

にて臥床されている方を床から移乗介助できるリフトである。大型装置であるため対象者を吟味する必要があるが、床からのみならずベッドからの移乗にも使用できる為次年度の導入を検討している。

⑧感染予防対策

感染症の流行が予測される時期よりも早い段階から、必要物品の準備を行い、不足する備品などがないように心がけた。昨年度も実施した吐しゃ物処理勉強会も継続して行い、知識としてのみならず実践的な勉強会も実施した。こうした働きかけは今後も継続して行っていく。

2. 通所介護事業（デイサービス）

（成幸・戸越台・荏原・小山）

通所介護は、高齢者の尊厳保持と自立支援という介護保険の基本理念を具現化するサービスであることを再確認して、利用者が在宅でいきいきと暮らし続けられるように、心身機能の維持・向上、社会的孤立感の解消、介護する家族の身体的・精神的負担の軽減などに努めた。職員一人ひとりがケアマネジメントプロセスを意識してサービスを提供し、個々のニーズに合わせたプログラムの展開を図った。家族・利用者とは連絡帳やお知らせなども活用し、コミュニケーションを図った。ケアマネジャー等関係機関との連携にも努めた。また、職員の力量の向上のために各種ミーティング、施設内外の研修等を活用した。

平成27年度より品川区では介護予防・日常生活支援総合事業をいち早く開始する予定である。そのために、平成26年6月から10月まで毎月開催された品川区在宅サービスセンター事業検討会（プロジェクトチーム）に法人から3名の代表を出し、意見交換に加わった。

また、できるだけ多くの方に速やかに利用していただけるように各センターで工夫して取り組み、法人全体としても、利用者受け入れの現状と改善点についての検討会議を2回開催している。

表⑤ 基本デイサービス・認知症デイサービス総計（延べ人数）（単位：件）

区 分	H26年度	H25年度	H24年度
成 幸	6,897	6,864	6,771
戸越台	10,003	10,214	10,811
荏 原	13,374	13,279	12,476
小 山	2,214	2,330	2,146

1) 基本デイサービス（予防給付・介護給付）

個々の利用者に対して、本人、家族の希望を尊重し、その人の必要に応じた通所介護計画を作成、交付し、それをもとにクラブ活動、機能訓練、入浴、食事等を提供した。高齢者は、体調が変化しやすいので家族との連絡を密にとり、利用中の小さな変化も見落とさず、迅速に的確な対応が行えるように努めた。

利用状況は下表の通りである。

表⑥

(単位：人)

区 分		H26年度			H25年度			H24年度		
		延べ利用者数	稼働率		延べ利用者数	稼働率		延べ利用者数	稼働率	
成 幸 定員20人	予防給付	1,841	5,176	84.6%	1,904	5,618	91.2%	1,748	5,322	90.3%
	介護給付	3,335			3,714			3,582		
戸越台 定員30人	予防給付	2,009	7,889	85.9%	2,119	8,016	86.8%	2,214	8,442	91.6%
	介護給付	5,790			5,897			6,228		
荏 原 定員40人	予防給付	3,872	10,602	86.6%	6,941	10,784	87.5%	3,354	10,406	84.7%
	介護給付	6,730			3,843			7,052		

2) 地域密着型認知症対応型デイサービス

成幸・戸越台・荏原・小山

生活リズムを整え、精神の安定を図ることを目標に、家族、ケアマネジャーと連携を取り、また、担当者会議により情報交換とケアプランの検討・再検討を行いながらサービスを実施した。

利用状況については、下表の通りである。

表⑦

(単位：人)

区 分	H26年度		H25年度		H24年度	
	利用者数	稼働率	利用者数	稼働率	利用者数	稼働率
成 幸 定員10人	延 1,805	59.0%	延 1,246	40.5%	延 1,449	47.4%
戸越台 定員10人	延 2,114	69.1%	延 2,198	71.4%	延 2,369	77.1%
荏 原 定員10人	延 2,772	90.4%	延 2,495	81.1%	延 2,070	67.4%
小 山 定員10人	延 2,214	72.3%	延 2,330	75.6%	延 2,146	69.9%

3) 介護予防事業（身近でトレーニング）

戸越台・荏原

要支援や要介護になるおそれのある人が、自宅でも「体力づくり」「運動習慣づくり」に取り組めるよう、椅子など身近な道具を使った運動方法を指導した。

表⑧

(単位：人)

区 分		H26年度	H25年度	H24年度
戸越台	実人数	252	247	244
	延人数	869	832	746
荏 原	実人数	250	164	193
	延人数	711	462	442

(実施回数：1回/週)

4) 品川区特別給付事業（身近でリハビリ）

戸越台

要支援1以上の方が身近な場所で体力の維持・向上を図り、生き生きとした生活を送ることを目標に、専門スタッフ（理学療法士・看護師・ケアワーカー）が、個別運動メニューにより家庭でも一人でできるリハビリ方法を指導した。

なお、平成16年から区の特別事業として実施してきたが、平成27年度から一般介護予防事業における「身近でトレーニング」に移行する。

表⑨

(単位：人)

区 分		H26年度	H25年度	H24年度
戸越台	実人数	256	261	283
	延人数	1,331	1,320	1,362

(実施回数：2回/週)

5) その他

(1) 各センターの取り組み

成 幸

①実地指導での指摘事項でもある「個別性の高い計画書」を作成するべく、夕方のミーティングの時間の使い方を工夫した。職員一人ひとりから活発に意見が出され、その人らしさが通所介護計画に反映することができた。（自立支援）介護保険法第一条にもあるように、介護サービスは自立の促進を重要視している。成幸デイサービスは、「自己選択」「自己決定」「自己遂行」を大切に、一人ひとりの利用者が主体的に楽しんでいただけるように過度な介入は行わず、職員は利用者間の潤滑油として観察しながら必要な支援を行っている。そのことを利用者自身も理解し、新規の利用者に対して積極的に関わる様子も見られた。

②夕方のミーティングで一人の利用者にスポットを当てて検討する中で、本人が

できる能力があるのに職員が手を出してしまっていることに気付くことができた。「自立支援」の考え方に基づいて、本人のできる能力を見極めて、できる事は自分でやってもらうという統一した支援が行えた。(クラブ) クラブに関しても自立支援を大切にしており、特に曜日で何をやるか決めず、利用者から希望を聞き複数の選択肢から選んでいただき、思い思いに過ごしていただくようにしている。また、利用者からデイサービスに来る時以外は外出の機会がないという話を伺うので、季節を感じてもらえるよう散歩やドライブを意識して行うようにしている。

- ③認知症対応型通所介護に関しては、不安の強い利用者について、いかに落ち着いて過ごしてもらえるか、全員で検討した。なぜ不安になってしまったのか、発言やその時の環境(座っていた位置からの視界・その時の周囲の音など)について、細かく気が付いたことを出し合うことの繰り返しにより、職員の観察する力は付いたのではないかと思う。(認知症対応型) 認知症対応型デイサービスの利用者に対し、本人の何気ない発言やちょっとした行動の変化を詳細に記録するようになって3年になる。職員一人ひとりの気付きも増え、活発な意見交換が行えており、本人の「できること」「できそうなこと」に着目した支援を今後とも行っていく。
- ④食事や利用時間についてのアンケートを行った。利用者、家族の意見や要望を踏まえ、より個別性の高い支援を行えるように努めていく。(稼働率の分析) この一年の傾向として、基本のデイサービスが堅調なのに対して、認知症対応型デイサービスの稼働率が落ちている。送迎車2台という限られた体制の中で、基本デイサービスが増えることにより認知症対応型の方の利用希望が受けられない状況も出てきているので、平成27年度はバランスも考えながら受け入れを行っていく必要があると考えている。送迎車2台体制で行っている中で、今後改善できるところを改善し、多くの方が利用しやすいデイサービスにしていきたい。

戸越台

- ①利用者・家族・ケアマネジャーからの聞き取りや自宅訪問の際に住環境の把握に努め、より生活実態に近い生活リハビリを提供した。住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう支援した。
- ②各種行事やボランティア活動をとおして地域住民との交流が図れ、利用者が地域の一員であることを再認識し、役割意識を持つことで自主性を高めた。また、小中学生との世代間交流では、利用者の思いやりや包容力をとおして子供たちへの高齢者理解につながっている。
- ③各セクションとの連携やシフトの見直しを図り、今まで実施ができなかった水曜日・土曜日の入浴を一部スタートさせ、入浴の待機者の減少に取り組んだ。
- ④認知症ケアについては、利用者が環境に適応していただけるようマンツーマン

対応や、主体的に利用できるよう尊厳を大切に丁寧な対応に努めた。

- ⑤自宅での状況を考慮しながら、デイサービス利用中は車いすをなるべく使用せずに歩行することや、普通の椅子に座っていただくなど運動量を増やすことで、心身機能の活性化や在宅生活を維持するための取り組みを行った。

荏原

- ①利用者の意思を確認しながら、くつろげる環境や自主的に活動できる環境を整えることができた。
- ②利用者一人ひとりと時間をかけて関わることで、意欲や能力の維持を目指すことができた。
- ③認知症高齢者の感情や行動の変化を知ることで、職員の観察力が高まり、その人らしさを引き出すための意識が強まった。
- ④行事ごとに地域との交流が深まり、デイサービスの環境の活性化につながった。
- ⑤利用者が満足できるサービスの提供に重点を置くことで、新たな取り組み（脳トレ、運動、余暇活動の提案など）を行った。
- ⑥連絡ノートのパソコン導入により、家族通信やお知らせ項目が増え、家族からのコメントも多く見られるようになって情報の共有が深まった。同時に要望や意見に対しても迅速に対応することができた。
- ⑦月に一度の「荏原在宅サービス調整会」を開催することにより各セクションが抱えている問題点や課題を知ることで、業務改善につなげることができた。
- ⑧毎月第2週（時事）・第4週（防災）に利用者に必要な情報を取り上げることで、職員間の意識向上とデイサービスの活性化につなげることができた。

小山

- ①利用者一人ひとりの認知症の症状を理解し、その人らしさを大切にした認知症ケアを実践するために、利用者の心身状態の変化、日々の生活状況、生活歴などの把握に努めた。
- ②身体機能が低下している利用者に対しては、在宅での日常生活が維持できるように、利用者の身体状況に合わせた機能訓練や生活リハビリを実施した。
- ③例年実施しているお花見などの外出以外に、地域行事への参加も積極的に行い、地域住民との交流や利用者にも季節感を感じてもらえるような取り組みを行った。
- ④家族懇談会を8月・11月・3月に開催し、その中で協力医の荏原中延クリニック・酒井隆医師からさまざまな助言や情報をいただいた。また、家族間の交流を図っていただくこともできた。連絡ノート等を活用して家族と交流する中で適切なアドバイスを行い、ケアマネジャーとも連携して精神的な面でのサポートも心掛けた。
- ⑤ケアの目標をより明確にし、それを職員間で共有することでケアの質の向上に努めた。システムを活用しケース記録等を入力することで業務の効率化を図った。

た。また、バイタルサインの記録などを、利用者の通院時に主治医への情報提供として活用した。

- ⑥小山の家のケアの実践報告として、10月18日「品川区・医療と福祉の連携のための意見交換会」（スクエア荏原）に出席し、ポスター掲示を行った。その内容を法人の広報誌「三徳だより」にも掲載した。

（２）入浴サービス

自宅での入浴が困難な方に、健康面と衛生面の保持を行うために利用者のADLに合わせて介助浴、機械浴の２タイプの入浴方法で対応した。また、家庭で入浴しているような雰囲気を作り、気分転換や情報交換の場としての活用も図った。

表⑩ (単位：人)

区 分	H26年度	H25年度	H24年度
成 幸	延 4,221	延 4,666	延 4,252
戸越台	延 5,031	延 4,736	延 4,449
荏 原	延 4,719	延 5,967	延 5,476
小 山	延 948	延 1,129	延 892

（３）機能訓練

個別性の重視と日常生活の維持向上を目的に、基本プログラムとグループ・選択別プログラムを設けて機能訓練を実施した。訓練を通じて、生活の改善や転倒防止、意欲の向上等を図るとともに、地域活動への積極的参加を促した。

また、訓練加算については、通所介護個別機能訓練加算Ⅰ（成幸・戸越台・荏原）と認知症通所介護個別機能訓練加算（戸越台）、予防通所介護運動器機能向上加算（成幸・戸越台・荏原）をそれぞれ算定している。

表⑪ (単位：人)

区 分	H26年度	H25年度	H24年度
成 幸	延 2,290	延 2,625	延 2,654
戸越台	延 6,344	延 5,810	延 5,752
荏 原	延 3,924	延 4,095	延 4,293

（４）食事サービス（通所、訪問）

通所、訪問食事サービス開始に当たっては、栄養相談を行い疾病や障害を考慮した食事サービスを提供した。また、緊急、電話、来園、手紙等による栄養相談も行った。ショートステイやデイサービスの利用者および家族には、介護予防を踏まえ

栄養教育を意識した「高齢者と介護者のための料理教室」や「介護者教室」の開催へ積極的に取り組んだ。

表⑫

(単位：件)

区 分		H26年度	H25年度	H24年度
成 幸	通所サービス	6,764	6,858	5,934
	訪問給食	1,317	1,254	1,325
戸越台	通所サービス	9,577	9,767	10,145
	訪問給食	1,917	1,852	2,145
荏 原	通所サービス	12,547	12,504	11,670
	訪問給食	1,548	1,621	2,165

(5) 保険外サービス

障害者や介護保険非該当の方、また長時間利用が困難な方の食事、入浴等のサービスを行った。

(6) 介護者教室

開催日	内 容	担 当	場 所	参加人数
5月27日	高齢者と介護者のための料理教室「ラクチンおいしいおかず」	成幸ホーム栄養室	荇原文化センター	18
6月24日	高齢者と介護者のための料理教室「からだにやさしい料理」	戸越台ホーム栄養室	荇原文化センター	18
7月22日	高齢者と介護者のための料理教室「低栄養を防ごう」	荇原ホーム栄養室	荇原文化センター	21
8月30日	特養と老健の違いについて(講師:ケアセンター南大井・五十嵐相談員、荇原ホーム・新庄室長)	荇原・小山台在宅介護支援センター	荇原ホーム多目的室	20
9月16日	高齢者と介護者のための料理教室「料理で脳トレ」	成幸ホーム栄養室	荇原保健センター	19
9月20日	第47回地域交流会「認知症の人の話を聞いて一緒に考えてみませんか」(講師:佐藤雅彦氏)	戸越台在宅サービスセンター	スクエア荇原 大会議室	40
10月25日	栄養チェックと簡単レシピ(講師:荇原ホーム吉田室長)	荇原在宅サービスセンター	荇原在宅サービスセンター食堂	24
11月1日	特養とグループホームの違い(講師:小山倶楽部・楠木管理者、成幸ホーム・恒任室長)	成幸・小山在宅介護支援センター	成幸ホーム会議室	13
11月18日	高齢者と介護者のための料理教室「健康寿命『風邪予防』」	戸越台ホーム栄養室	荇原保健センター	16
2月14日	特養とサービス付き高齢者住宅の違い(講師:大井林町サービス付高齢者住宅・竹内所長、戸越台ホーム・李課長)	戸越台・杜松在宅介護支援センター	戸越台ホーム 10階会議室	14
2月17日	高齢者と介護者のための料理教室「食べてポカポカ」	荇原ホーム栄養室	荇原保健センター	20
2月21日	27年度制度改正から見えるこれからの介護保険(講師:品川区高齢者福祉課庶務係・高桑係長)	成幸在宅サービスセンター	成幸ホーム会議室	32
2月28日	第25回生と死を見つめる懇談会「人生における生と死の意味～人間の苦悩と幸・不幸～」(東京福祉大学・秋山智久教授)	戸越台ホーム	スクエア荇原 大会議室	64
年開催数	11回		参加人数合計	318

(7) 健康管理

年々、重介護を必要とする利用者や、さまざまな慢性疾患をもつ利用者が多くなってきている。安心して利用していただくための事前訪問、来園時のバイタルチェック、全身状態の観察を義務づけて実施した。センター（デイサービス、ショートステイ）での年間の処置件数は表⑬の通りである。

表⑬ (単位：件)

区 分	H26年度	H25年度	H24年度
成 幸	17,934	16,982	16,349
戸越台	14,672	14,198	14,055
荏 原	15,787	28,135	26,698

(8) 四季の行事

今年度も花見、夏まつり（納涼祭）、バスハイク、クリスマス会など四季折々の行事を実施した。

3. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）

ショートステイの主な目的は、高齢者の自立支援と在宅生活の継続の支援である。そのため介護者に対しては、介護者が自分の時間を作り、心身のリフレッシュ、就労や用事等に充て、介護を継続することおよび社会生活の継続を支援した。その際は、家族が安心して利用してもらえるよう報告・連絡・相談を入念に行うように心がけた。

利用者への支援としては、在宅での生活を継続していくことが前提であるため、心身の機能の維持・向上のための機能訓練や趣味活動などのプログラムの提供に努めた。同時にさまざまな活動を通して利用者同士のコミュニケーションを推進し、社会性を保てる支援を提供した。併せて利用することへの抵抗感や不安感などに対する心理的サポート、環境変化による心身の変化の観察と配慮も欠かさないように努めた。

また、これらの支援のためには、自宅から施設間の連続性の視点を持ち、適切なアセスメントとケアプランの作成、スタッフ間の周知徹底、介護者とのコミュニケーション、在宅介護支援センターや行政機関、医療機関などとの連携に努めた。

介護者の急な入院や虐待などの緊急性があるケースに対しては、できる限り受け入れるように努めた。

感染症に対しては予防策に努め、利用者に感染症の疑いがあった際は、正確な知識と適切な対応方法により感染症の拡大防止に努めた。

さらに今年度は、利用者・家族に対するアンケートや品川区セルフチェックにより、運営の健全性の確認とサービスの改善を図る機会とした。

表⑭

(単位：人)

区 分	H26年度		H25年度		H24年度	
	利用者数	稼働率	利用者数	稼働率	利用者数	稼働率
成 幸 定員16人	延 4,948	86.1%	延 5,662	98.5%	延 5,188	93.3%
戸越台 定員 8人	延 2,939	100.7%	延 3,142	107.7%	延 3,128	107.1%
荏 原 定員30人	延10,786	98.5%	延10,875	99.4%	延10,979	100.9%

各施設の取り組み

成 幸

- ①特養併設の強みを活かして、特養利用者との交流、クラブ・イベントの参加を楽しんでいただくことができた。「楽しかった」と言って帰る方も増え、宿泊サービスの負担感を軽減することができた。職員もサービスマナーを心掛け、「また利用したい」につながるよう継続して努力している。
- ②家族との信頼関係が強まった。ショートステイ専属の職員が、利用前の電話面接を継続している。本人のみならず、介護者の体調についても知ることができ、ケアマネジャーとの連携にも役立った。入所時には、介護者の時間を作れるよう、短時間での手続きを心掛け実践した。退所時には、個別サービス計画書を用いて利用中の様子を説明し、家族からの話を傾聴した。在宅介護での本人および家族のストレスについて学びながら、ショートステイの求められている役割について考えることができた。
- ③個別の対応を心掛けた。施設では難しいと思われがちな対応について、積極的に受け入れられる方法をチームで考え対応した。医療ニーズについては、ケアマネジャーを中心に、かかりつけ医等の在宅チームとの連携をとり、リスクについて十分な説明を家族に行い、安全性を重視して受け入れた。また、「利用後、自宅に帰った時に状態が変わって、介護が大変になるかも」という家族の不安感を解消するために、自宅でのきめ細かい介護を学ぶ気持ちを持って可能な限り実施した。認知症の方へも、心情理解に努めながら対応し、多くの方に、安心して宿泊していただくことができた。
- ④区、在宅介護支援センターとの連携をスムーズに行い、緊急の受け入れ、次施設の入所までの利用など、臨機応変に対応して地域福祉に貢献した。

戸越台

- ①事前の訪問面接でアセスメントを行い、できるだけ自宅の環境に近づけるよう介護機器を活用しながら対応した。介護機器の使用については、退園時にご家族に説明し有用性を伝えた。また、利用中にあった転倒事故については、すぐに改善策を検討し介護機器や日用品を活用し予防に努めて事故を防ぐことができた。
- ②クラブやイベントは、事前の電話面接や入所時にお伝えし、積極的に参加していただけるように対応した。また、クラブ参加時の利用者の様子は、ケアプランに載せて意欲的に継続できるようにした。
- ③利用者同士のコミュニケーションの活性化に取り組み、食事の席への配慮や職員が橋渡しすることで利用者同士の話が弾み交流の機会が増えた。また、テーブル拭きやおしぼり巻きなどの日常の仕事を行うなど役割を持つことで自立支援につながった。

- ④今年度は職員の減員により、ショートの緊急受け入れや延泊への対応が難しかったが、特養の空床利用がある時には可能な限り受け入れ、日程の延長や変更にも対応した。また、継続して利用されている方が、医療的な対応が必要になった場合でも状態を確認しケアマネジャーや看護師と連携して受け入れた。

荏 原

- ①「利用者本人が『また来たい』と言ってもらえるようなサービス」をテーマに、今年度は利用者の交流の場としての役割を考えてきた。日中は楽しく活動してもらい夜間はぐっすり寝てもらおうと行ってきたレクリエーション活動はもちろんのこと、気の合う利用者同士の座席の配慮や交流ができるような橋渡しを行った。「この歳になっても友達ができてうれしい」「囲碁ができるとは思わなかった」などの声があった。
- ②パソコンの有効活用として、個人情報には留意しながら写真で記録を残すことで業務の効率化を図った。衣類の取り違いによる紛失防止目的や入園時の下肢の浮腫や怪我の状態など、文字だけでは伝えきれない情報の確認ができた。
- ③1月末に発生した感染症のインフルエンザで保健所の指導のもと、一時期ショートステイ滞在の制限を行ったが、感染の拡大に努め2月中旬には通常に戻すことができた。
- ④ケアマネジャーをはじめ、各関係機関と連携を図りながら、緊急を要するケースの受け入れや利用期間の延長希望、キャンセル待ちなどの調整を柔軟に行った。また、併設している特別養護老人ホームとの連携で空床ベッドを活用して、さまざま要望に対応した。新規利用者は1年間で、132名の方を受け入れた。新規利用者の調整に至っては159名のケースを扱った。
- ⑤昨年度に引き続いて、日頃の連携に関する課題検討や情報交換を目的に、月に一度「荏原在宅サービス調整会」を開催した。荏原在宅サービスセンター、荏原ショートステイ、および荏原・小山・小山台の3支援センターの室長が参加した。
- ⑥東京都社会福祉協議会のショートステイあり方検討委員会に委員として主任が出席し「生活相談員のためのショートステイマニュアル」出版に向けて活動し発刊まで携わった。

4. 在宅介護支援センター

(居宅介護支援事業、老人介護支援センター、地域包括支援センター)

(成幸・戸越台・杜松・荏原・小山・小山台)

区内でも高齢化率の高い荏原地区において、当法人は6箇所の在宅介護支援センターを運営しており、地域の身近なところで区民の相談支援にあたった。(11月に戸越台第二在宅介護支援センターが移転し、杜松在宅介護支援センターと名称を変更し、より地域に根差した支援を展開する機会を得たことは、今年度の特筆すべき出来事である)

品川区の在宅介護支援センター(以下、「支援センター」)は、3つの機能を兼ね備えている。一つ目は従来の在宅介護支援センターとしての機能、二つ目は居宅介護支援事業所としての機能、そして、区役所に1箇所設置された地域包括支援センターのサブセンターとしての機能である。これは、支援センターを中心に区民の在宅介護を支えるという、介護保険制度施行以前から構築されてきた在宅介護支援システムを踏襲し活用した形である。

地域包括支援センターの機能は、1) 総合相談窓口・権利擁護機能、2) 介護予防マネジメント、3) 包括的・継続的マネジメントの支援、の3機能であるが、それらに照らし合わせて、今年度の支援センターの事業を報告する。

1) と3) については「ワンストップ・サービス(たらいまわしをしない)」「相談しやすい環境作り(相談しやすい環境整備, 相談者としての資質向上)」「情報収集とその活用」を行いその機能を果たし、さらにその強化に努めた。地域へのアプローチについては、区民まつり等地域の行事に参加して「高齢者の生活に関わる相談窓口」としての支援センターのPR活動に努め、また、地域の民生委員協議会に毎月参加する機会を得て、民生委員との連携を強め、その他、ふれあいサポート活動会議等により、地域の各団体とのネットワークを拡げた。権利擁護機能については、虐待・権利擁護事例に区役所、品川後見センター等と協働して取り組んだ。また、地域で認知症の方々を支えるために認知症サポーター養成講座を各地区でそれぞれ開催し、地域住民の認知症についての理解と協力を促進した。今年度から認知症サポーターレベルアップ事業も開催した。(各支援センター、養成講座年3回以上・レベルアップ事業年1回以上開催の委託を品川区から受ける)さらに、認知症早期発見・早期診断推進事業を本年度も品川区から委託され、DASCというアセスメントシートを用い、品川区および荏原病院認知症疾患医療センターと連携を取った。

2) については、各支援センターに専任の介護予防担当者(2~3名)を配置し、「予防給付(要支援1・2の方)」のケアマネジメントを行った。また、二次予防事業対象者把握事業を品川区の委託を受け、各支援センターが、介護予防の啓発と二次予防対象者の掘り起こしのための健康教室をそれぞれ地域の団体に対して行った。

(なお、この事業は平成27年度の介護保険制度改定に伴い平成26年度で終了する)

また、品川区との協定により、介護給付担当者も介護予防給付のケアマネジメントを行うことができるようになり、実際に運用した。（主に要支援と要介護の境界の状態にある利用者が対象）

介護者の支援にも重きを置き、法人内の在宅サービスセンター、栄養室と分担して、ほぼ毎月介護者教室を開催した。また、品川区の委託事業である介護者宿泊研修を千葉県鴨川で開催した。今回は減額された予算の中でも、昨年、一昨年を上回る41名の参加者があった。（担当は戸越台在宅介護支援センター）

一人ひとりが相談員としての総合的な力量をつけるためには、内部研修、事例検討の機会を持ち、その他、品川福祉カレッジをはじめとした各種研修に積極的に参加し、研鑽に努めた。また、今年度も支援センター全職員参加の合同研修を開催した。前期は相談面接の基本についての研修を、後期は10月に起きた介護報酬請求に関する事故を受けて、あらためて介護報酬請求のしくみ・注意点について学ぶ機会を持った。また、特に今年度は10名の新任職員が配属されたため、新任職員のための研修を4月に行った。

介護給付・予防給付の取扱い件数の傾向としては、予防給付件数は増加したが、介護給付件数が、前年度の職員の欠員や今年度の新任職員の増員等の影響で減少した。これを受けて、現状の分析と今後の対策を検討する会議を法人として持った。

平成27年度の介護報酬改定を間近に控え、その準備を進めた。特に予防通所介護と予防訪問介護が予防給付から介護予防・日常生活支援総合事業に移行することから、品川区介護予防マネジメント検討分科会に当法人から代表2名が参加し、方向性を決めることに寄与した。

次に、平成26年度事業計画で掲げた各支援センターの取り組みを以下に報告する。

各センターの取り組み

成 幸

①尊厳ある生活の支援

- ・定期的なミーティングにて利用者の価値観を理解するために、アセスメントの意味について再考し、クライアントの思考、感情、行動の意味を捉え直し、真の意味における本人本位のケアの実践に努めた。
- ・認知症サポーター養成事業においては、城南信用金庫荏原支店、荏原第3地区民生委員協議会、(株)コクミン東日本支社、平塚3丁目町会住民の方々を対象に実施。平塚3丁目町会においてはレベルアップ研修と位置づけて、認知症の更なる理解を深めていただくことができた。地域住民だけでなく、企業等への講座開催により、地域全体の福祉力向上に努めた。
- ・二次予防事業対象者把握事業「毎日の運動で健康な体作り」では、成幸ホーム機能訓練士を講師に、継続的な運動の必要性とその運動方法について情報提供をすることができた。また福祉まつりへの参加を通じて、在宅介護支援センタ

一の活動について周知するとともに、支援センターの事業に関する啓蒙活動を行うことができた。

②ネットワークづくり

- ・地区ケア会議において、参加するサービス提供事業所とケース検討、意見交換等を行うことより、関係性の構築を進め、連携を深めることができた。
- ・民生委員協議会、ふれあいサポート活動会議などへの定期的な参加により、地域との連携強化を図ると同時に、地域の実態を把握することができた。

③相談員としての力量の向上

- ・個人研修計画に基づき、各自が計画的に研修等へ参加し課題解決のために取り組むことができた。この成果については定例のミーティングの場においてフィードバックし、事業所全体で共有することができた。
- ・事例を用いたスーパービジョンの充実を図り、事例提供者のみならず、全職員がクライアント理解を深め、専門職としての力量を高めることができた。加えて、事例を共有することで、事業所内における職員間の支援体制の構築を図ることができた。

戸越台

①尊厳ある生活の支援

- ・戸越銀座まつりと区民まつりに参加し、地域に根ざした支援センター事業のPRを行い、地域の民生委員や近隣住民が気づいた高齢者の変化を、来所や電話にて支援センターへ相談いただけることが増え、迅速に動くことができた。
- ・二次予防事業対象者把握事業として、地域の高齢者クラブでの講義や寸劇を行い、高齢者に支援センターの存在を知っていただくとともに、認知症予防への啓発活動を実施することができた。
- ・認知症サポーター養成事業を年3回行い、認知症になってもできる限り地域で生活ができるように、民生委員や戸越台中学校の生徒と一緒に考えることができた。またドラッグストアの企業向けの同事業にも参加して、広く地域の福祉力向上に努めることができた。
- ・消費者トラブル、高齢者虐待、介護保険サービスにつながらない方々の相談にも丁寧に対応し、しかるべき関係機関へつなぐことができた。

②ネットワークづくり

- ・月1回の地区ケア会議に地域の居宅介護支援事業所や、サービス提供事業等が参加することが増えて、顔の見える関係づくりを進めることができた。
- ・民生委員協議会やふれあいサポート活動会議等へ参加し、民生委員を通じて地域住民とのネットワークづくりに努めた。
- ・品川区の介護者宿泊研修を企画・募集・実施して、参加者41名の交流を促し、「リフレッシュできた」「介護する気持ちを共有できる仲間づくりができた」「また参加したい」との好評をいただいた。

③相談員としての力量の向上

- ・東京都や品川区などによる研修に参加して得た知識を部署内で共有し、また週1回の部署内ミーティングの場を活用して、ケース検討以外にも介護保険制度や医療的な知識などの勉強会も行い、相談員としてのスキルアップに努めた。

杜 松（旧戸越台第二）

本年11月、担当地域内に杜松地域密着型多機能ホームがオープンし、事業所移転と同時に杜松(としょう)在宅介護支援センターと名称変更を行った。

①尊厳ある生活の支援

- ・スタッフ相互の支援体制に重きを置いた。週1回の定期的なケース検討会議の開催をはじめ、毎朝の朝礼を活用しての情報交換、同行訪問等スタッフ間の情報共有に努めた。
- ・地区ケア会議においては従来の個別ケース検討に加えて、既存の介護サービス等につながらない気になる人リストを作成した。事業所として継続的なかわり方を模索した。

②ネットワークづくり

- ・地域とのつながりにおいては、民生委員協議会やエリア内のグループホーム運営推進会議などへ定期的に出席することで連携強化が図れ、スムーズな情報交換が行われた。
- ・二次予防事業対象者把握事業においては事業所移転後実施。新たな拠点の活用の可能性を模索した。地域住民の方、荏原第五地域センター高年者懇談会に参加される方々等を対象に実施した。
- ・認知症サポーター養成事業においては荏原第5地区民生委員連絡協議会、町会の老人会、職業訓練校を対象にそれぞれ実施。地域づくりを行う上での力量を上げていくことを目指した。また、今年度からレベルアップ事業も実施。認知症カフェ等たまり場作りの取り組みに着手した。
- ・地域の中に小規模多機能ホームができたことで、新たな可能性が広がった。

③相談員としての力量の向上

- ・年間を通して各自テーマを持ち、研修に取り組む姿勢をもつことができた。他の支援センターとの合同研修や情報交換、東京都および品川区主催の各種研修への参加など、一人ひとりが自覚を持ち研鑽に努めた。研修に関しては定期的なミーティングを持ち、情報共有を図った。

荏 原

①尊厳ある生活の支援

- ・認知症や精神疾患、また病状の多様化に対応するため、認知症や精神疾患、医療についての勉強会や研修の参加を意欲的に行い、実践での活用に力を注いだ。

- ・認知症の方等が安心して在宅生活を送るためには、地域の方の協力が必要となる。認知症サポーター養成事業を平成26年度は5回開催した。その内1回はレベルアップ編として行った。対象は、コクミンドラッグ東日本支社の店長、グループホームあんしんケアホームの職員、SMBC日興証券の職員、平塚2丁目町会の方、荏原第1地区民生委員の方に対し実施し、認知症への理解を深めた。
- ・介護者教室では8月30日(土)に「特別養護老人ホームと老人保健施設との違い」をテーマに開催した。講師は荏原ホーム生活サービス室室長とケアセンター南大井相談員の方をお迎えし、各施設の特徴や料金体制、利用目的についての講義を行った。

②ネットワークづくり

- ・地区ケア会議において、顔の見える関係づくりに努めネットワークを広げた。また、意見交換や情報交換を行い、関係機関との関係づくりを構築した。
- ・ご利用者が住み慣れた在宅での生活を維持することができるよう、入退院時にはこまめに足を運び、ご本人・ご家族・医療機関・サービス事業所との連携を密に行った。また、在宅においても医療機関との情報の共有や連携に努めた。
- ・二次予防事業対象者把握事業は「はつらつ健康教室」として、荏原1丁目老人クラブの方を対象に「栄養評価」の内容で行った。民生委員に対しては、月1回の民生委員協議会へ参加することで、荏原支援センターでの担当ケースや地域での相談等の情報交換や共有、協力体制、連携の強化を図った。
- ・平成25年度から月に一度行っている「荏原在宅サービス調整会」を開催している。荏原在宅サービスセンター、荏原ショートステイ、および荏原・小山・小山台の3支援センターの室長が日頃の連携に関しての課題検討や情報交換を行った。

③相談員としての力量の向上

- ・研修の参加や、部署内ミーティングにより、相談援助技術の向上や業務内容の改善の実施を行ったこと、ケース検討を行うことにより、相談員としての力量の向上を図った。
- ・職場内において、何でも話せる、発言できる（相談できる）環境づくりに心掛け、また、報告・連絡・相談の徹底を図った。
- ・グリーフケアを意識し、介護を終えた後の相談を受けたり、家族へ連絡しご様子を伺う等の支援を行った。また、サービスを受けていない方、介護保険の申請はしていないが、地域で気になっている方々に対して、定期的に足を運ぶなど必要な支援の提案や情報の提供などのアプローチも積極的に行った。

小 山

①尊厳ある生活の支援

- ・アウトリーチ：支え愛ほっとステーション・民生委員等の情報提供や連携により生活に支障をきたしている高齢者の早期発見を行い、必要な支援に結びつけ

ることに努めた。

- ・エンパワメント：介護保険サービスや、さまざまな社会資源の情報を提供し、生活が持続できる術が一人ひとり行えるように支援していくように努めた。

②ネットワークづくり

- ・大田区・目黒区の地域包括支援センターや行政に地区ケア会議に参加いただきネットワークの構築に努めた。
- ・病院の医療相談室、訪問診療のMSWなどに積極的に足を運び、相互理解を深め、入退院がスムーズに行え、継続的ケアが行えるように努めた。

③相談員としての力量の向上

- ・各自が研修に参加し自己研鑽に努めるとともに、ミーティングの充実を図り、事業所全体で相談者への対応能力を高めた。
- ・平成27年度の体制への移行ができるように努めた。

小山台

①尊厳ある生活の支援

- ・各関係機関が連携、協働しながら個々の高齢者の状況やその変化に応じて、迅速かつ柔軟な対応を行うことができた。
- ・認知症をはじめとした精神疾患のある方については、認知症早期発見早期診断推進事業を利用、医師や保健師などの専門家の意見を取り入れながら進めていくことができた。

②ネットワークづくり

- ・地域福祉の相談窓口である民生委員との連携については、民生委員協議会への参加や日頃から情報交換の機会を持つことにより強化を図った。今後も高齢者がいつまでも、地域で安全に暮らしていけるように、互いの持つネットワークを活かしながら協力関係を醸成させる。
- ・地区ケア会議の充実により、居宅介護支援事業所やサービス提供事業所等の連携、情報共有が深められた。

③相談員としての力量の向上

- ・「コミュニケーション能力の向上」、「わかりやすい記録の作成」を目標とし職員各々の資質向上を目指した。
- ・定期的にミーティングを行うことで個別のケースの進め方を検討、情報の共有化を図ることで相談員としての力量の向上につながった。

表⑮ 要介護認定調査 (単位：件)

区 分	H26年度	H25年度	H24年度
成 幸	547	502	486
戸 越 台	376	422	483
杜 松	622	537	587
荏 原	535	425	419
小 山	605	492	516
小 山 台	327	317	362

表⑯ 相談者数 (単位：件)

区 分	H26年度	H25年度	H24年度
成 幸	12,153	7,822	7,010
戸 越 台	9,091	8,233	8,205
杜 松	12,415	12,437	9,779
荏 原	11,742	10,510	10,283
小 山	10,480	12,049	10,672
小 山 台	6,551	6,623	6,310

表⑰ 国保連への請求件数 (単位：件)

区 分		H26年度		H25年度		H24年度	
成 幸	介護給付	2,225	延4,260	2,136	延3,970	2,246	延4,050
	予防給付	2,035		1,834		1,804	
戸越台	介護給付	2,375	延4,259	2,416	延4,404	2,375	延4,322
	予防給付	1,884		1,988		1,947	
杜 松	介護給付	2,306	延4,574	2,383	延4,396	2,190	延4,236
	予防給付	2,268		2,013		2,046	
荏 原	介護給付	2,002	延3,965	2,091	延3,946	1,875	延3,558
	予防給付	1,963		1,855		1,683	
小 山	介護給付	1,964	延3,874	2,033	延3,823	1,944	延3,570
	予防給付	1,910		1,790		1,626	
小山台	介護給付	1,748	延2,824	1,711	延2,717	1,462	延2,246
	予防給付	1,076		1,006		784	

※杜松(旧戸越台第二)

5 クラブ活動

絵画・習字・生け花・園芸・手芸等の創作活動、音楽リハビリ・民謡・踊りでリハビリ等の音楽活動、そして、利用者同士・講師やボランティア・職員との交流を通して、精神面・身体面・社会面のリハビリテーションを行った。その際、個々の利用者の状態や希望に応じて、利用者が主体的に取り組めるように働きかけた。また、作品展等で展示の機会を設け、活動の励みとした。

各センターで実施したクラブ活動状況は表⑱の通りである。

表⑱

(単位：人)

区分	ク ラ ブ 名	実施回数 (回)	参加延人数 (人)	1 回当たり平均 (人)
成 幸	月曜日 (月 1 回踊りでリハビリ)	53	866	16.3
	火曜日	53	901	17.0
	水曜日	51	927	18.2
	木曜日	51	878	17.2
	金曜日	51	801	15.7
	土曜日	51	898	17.6
戸 越 台	絵画クラブ (月曜日)	52	636	12.2
	習字クラブ (火曜日)	53	1,009	19.0
	生け花クラブ (第 2 水曜日)	11	328	29.8
	水曜日クラブ	52	304	5.8
	木曜日クラブ(月 1 回踊りでリハビリ)	52	428	8.1
	金曜日クラブ	52	492	9.3
	音楽リハビリクラブ (土曜日)	23	415	18.0
	土曜日クラブ	27	252	9.3
荏 原	物作りクラブ (月曜日)	37	665	17.9
	音楽クラブ (第 3 月曜日)	12	203	16.9
	レクリエーションクラブ(火曜日)	40	526	13.2
	絵手紙クラブ (第 1・3 火曜日)	24	167	6.9
	押花クラブ (第 2・4 火曜日)	24	165	6.8
	踊りでリハビリ (第 4 火曜日)	12	155	12.9
	習字クラブ (水曜日)	50	988	19.7
	美術クラブ (木曜日)	50	679	13.4
	園芸クラブ (第 1・3・5 金曜日)	26	406	15.6
	華道クラブ (第 2・4 金曜日)	24	443	18.5
	音楽リハビリクラブ(第 1・3・4 土曜日)	38	1,012	26.6
	民謡クラブ (第 2 土曜日)	11	309	28.1

6 研修報告

1) 国内外研修

国内外における先進施設の視察研修や海外の社会福祉、高齢者介護、福祉施策などを視察した。

そして研修終了後には、研修報告会を開催して、研修で得られた情報や知識、技術などを全職員に共有した。

2) 施設外研修

品川区の主催による認知症ケア専門研修をはじめ、東京都高齢者施設福祉部会など各種研修、研究会などに職員を参加させて、サービスの向上に努めた。

また、日常業務の成果を学術集会や研究会などで発表して専門家からの批評を受け、絶えず自己啓発に努めた。

3) 施設内研修

新人研修、サービス研究会、個別ケア勉強会などのほかに、外部講師を招いての研修会などを計画的に開催して技術向上や専門知識の習得に努めた。

7 地域活動

1) 生と死を見つめる懇談会

講師に東京福祉大学社会福祉学部教授・学部長(社会福祉学博士)秋山智久先生を招聘して、「人生における生と死の意味～人間の苦悩、幸福と不幸の観点～」というテーマで、この人間の最大の課題を問い直し、会場の参加者一人ひとりが深く考える懇談会で多くの反響があった。

2月28日(土) スクエア荏原 3階大会議室 参加者64名

2) 広報紙「三徳だより」の発行

法人の各種事業内容や福祉情報を地域の方々や関係機関に広報することを目的に、年4回広報誌「三徳だより」を発行した。1回当たりの発行部数は1,000部である。

3) ホームページの活用

今年度ホームページを刷新して、三徳会の各種サービス、職員採用情報を充実させ多くの方が活用できるように、またより良い人材確保に努めた。

4) 地域交流会

若年性認知症の佐藤氏(認知症当事者の会 3つの会代表)・サポーターとして水谷氏(NPO法人認知症当事者の会)を講師に迎え、「認知症の人の話を聞いて一緒に考えてみませんか」というテーマで行った。認知症になるまでの経緯・診断を受けた時の気持ち・今できることとできないこと等を話していただいた。また品川区役所高齢福祉課の職員や三徳会職員も参加し、地域で認知症の人をどのように支えて行けばよいかを考える場とした。

9月20日(土) スクエア荏原 大会議室 参加者 40名

5) 高齢者と介護者のための料理教室

年6回、3施設の管理栄養士が共同で開催した。会場はいずれも荏原文化センターで健康増進と介護予防を目的に実施した。料理を通して地域の高齢者や介護者のコミュニケーションの場にもなっている。

延べ参加者数：112名

6) 車いす点検

各施設ともに年2回の総合点検と随時の保守点検を実施した。

7) ボランティア懇談会

年度末に民生委員と個人・グループのボランティアから意見・要望を聞くとともに、ボランティア同士の交流や情報交換、施設への第三者としての視点からも意見交換を図った。

表⑩

区分	開催回数	延べ参加者数
成幸	2回	22名
戸越台	2回	36名
荏原	2回	28名

8) 地域行事への参加

区民まつり、ふくしまつり、幼稚園、保育園、小・中学校、地域の町会など地域行事に積極的に参加して交流を行った。

8 その他

1) 実習生・研修生

人材育成と社会への貢献などを目的として実習生、研修生などを計画的に受け入れた。

2) 防災対策

火災や震災などを想定した防災訓練を定期的を実施した。また、東日本大震災を教訓に、ライフライン遮断時の対応や電話連絡の不通やエレベーター停止などへの対応を振り返り、今後の地震への安全に配慮した対応策を検討して周知を図った。

また、大規模災害発生後の事業継続計画（BCP=Business Continuity Plan）などの作成により、利用者と職員の安全性を重視した検討を行った。

3) 感染症対策

免疫機能が低下している利用者への感染によって、大きな被害を発生させる可能性があるインフルエンザウイルスやノロウイルス、0-157などの病原性大腸菌やレジオネラ菌群、多剤耐性緑膿菌、サルモネラ菌や疥癬などの予防や感染症対策には、感染症対策委員会を設置して外部からの感染に注意を払い、予防の徹底に努めた。

また、保健所から講師を招聘して、最新の感染症に関する情報と適切な対応方法の指導を受けた。

9 業 績

(1) 表彰など

- ◇飯島忠洋:東京都功労者表彰
- ◇宇賀神 努:東京都高齢者福祉功績者感謝状
- ◇石渡恵美子:東京都高齢者福祉功績者感謝状
- ◇李 美雪:東京都高齢者福祉功績者感謝状

(2) 口頭発表

- ◇内野滋雄, 鈴木貴文:特別養護老人ホームでの看取り;第11回敬心学園学術研究会, 2013. 5. 31-6. 1(東京都)
- ◇鈴木貴文, 内野滋雄;看取りケアの実施による特別養護老人ホーム介護職員のストレスについて 第1報;第11回敬心学園学術研究会, 2013. 5. 31-6. 1(東京都)
- ◇鈴木貴文, 内野滋雄;特別養護老人ホームにおける看取りケア実施による介護職員への負担について 第2報;第30回日本ストレス学会学術総会, 2014. 11. 7-8(東京都)
- ◇鈴木貴文, 内野滋雄;看取りケアの実施による介護職員へのストレスについて 第2報;第20回日本臨床死生学会大会, 2014. 11. 29-30(川崎市)

(平成26年度品川福祉保健従事者実践・研究発表会)

- ◇宮崎憲嗣, 鹿野仁美, 前田仁美;経鼻栄養から経口栄養摂取への取り組みについて;平成26年度品川福祉保健従事者実践・研究発表会, 2015. 2. 7(東京都) 最優秀賞受賞
- ◇内野滋雄, 富岡 豊, 山口由美子, 鈴木貴文;特別養護老人ホームでの看取り～よい死を迎えるために～;平成26年度品川福祉保健従事者実践・研究発表会, 2015. 2. 7(東京都) 審査員特別賞受賞
- ◇鈴木貴文, 松崎祥子, 新庄 正, 小高史万子, 内野滋雄;看取りケアの実施による職員のストレスについて;平成26年度品川福祉保健従事者実践・研究発表会, 2015. 2. 7(東京都) 奨励賞受賞
- ◇豊 聡, 田邊麻衣;「おいしい」が聞きたくて～状態低下、再入所からの回復～;平成26年度品川区福祉保健従事者実践・研究発表会, 2015. 2. 7(東京都) 奨励賞受賞